

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3671300154
法人名	有限会社 介護サービス羽ノ浦看護婦家政婦紹介所
事業所名	グループホームあすか
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町宮倉原ノ内40番地 (電話) 0884-44-6300

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 9月 7日

【情報提供票より】(平成19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 7 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	8.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	江藤病院 ・むらかみ内科循環器科クリニック・八幡歯科医院
---------	------------------------------

徳島県 グループホームあすか 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念に基づき、家庭的な雰囲気の中で利用者と馴染みの関係が築かれ、利用者は明るい笑顔でありのままの姿で気兼ねなく生活されている。職員は利用者が表出する喜怒哀楽を受け止め、温かい支援をされている。ホームは地域の生活道路に面し、往来する子どもや近隣住民に常に接することができ、日頃の挨拶や野菜づくり等を通して日常的な交流が行われ、顔なじみの関係が築かれている。また、防災に関しての地元消防団との連携、住民の運営推進会議への熱心な参加、ホームの夏祭りの呼びかけに大勢の人たちが集う等、地域交流が積極的に行われている

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は、カンファレンス時に報告し、改善課題について全職員で話し合い、改善策が図られている。社会資源の介護計画への盛り込みは、個別ごとの介護計画に盛り込まれ、緊急時対応への定期的訓練の実施についても、定期的訓練実施と研修への積極的参加に取り組み、改善がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に先駆け、評価の意義やねらいについて、管理者と職員がよく話し合い、カンファレンス時に全員で検討を行うなどし、自己評価を作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の民生委員、市議会議員、近隣住民、地域包括支援センター、利用者代表、家族会代表等による運営推進会議が開催され、認知症理解への取り組みやホーム事業の報告、災害対策と地元の協力体制の依頼策等が話し合われている。また、地元消防団との連携、ホームの夏祭り開催、職員のキャラバンメイトによる出前PR等、運営推進会議を活かした取り組みが行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の方には来訪時や毎月発行する「あすか便り」により、暮らしぶりや健康状態、ホームの行事等の報告が行われている。また、家族会では家族同士話し合える機会づくりに配慮するなどして、家族の交流を図り、何でも話してもらえる関係づくりに努められている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏・秋祭り、保育所の敬老会等への参加や防災対策への地元消防団との連携、認知症学習実習生の受け入れを行っている。また、地域向けホーム便りの発行、空き地を利用したホームの夏祭りの開催、菜園畑や散歩道での挨拶交流等を通して積極的に地域交流に取り組んでいる。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「“ゆったり、いっしょに、たのしく、ゆたかに”を基調とし地域社会で、認知症高齢者が、主体的で人間らしく、満足できる生活が送れるように援助する」を理念とし、利用者が地域の中で主体的に暮らし続けることを支えていく理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念及び一日の心がけ目標（早出職員が反省・目標等踏まえて決める）を唱和し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏・秋祭り、保育所の敬老会への参加、災害避難訓練等地域消防団との連携、実習生の受け入れをしている。また、ホーム便りの発行、日常生活での挨拶交流等のほか、近所の空き地を利用したホームの夏祭りを開催し、地域のたくさんの方の参加を得るなどして地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は項目ごとの意義やねらいを管理者、職員全員で話し合い、ケアの再確認や反省点を見出し改善に取り組んでいる。前回の外部評価結果については改善課題をカンファレンス時に報告、検討課題として取り組み改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には民生委員、地域住民等多様な方の参加を得て、サービス状況報告のほか評価や取り組み課題（災害対策、地域交流等）の話し合いが行われ、会議の意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、報告や相談に出かけて市担当職員と連携を図り、グループホームの実状などの理解を得ながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時のほか、毎月発行する、あすか便りでも、暮らしぶりや行事、職員の異動等を報告している。預かり金も個々に合わせて報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には家族会(年一回開催)で、家族同士話し合える機会をつくったり、訪問時に声をかけ、何でも話してもらえぬ関係づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独経営であるため職員の異動はないが、認知症ケアに適した職員の雇用及び離職などを必要最小限に抑える努力をして、利用者との馴染みの関係を重視する配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者はホームの運営やサービスの質の向上に研修受講が不可欠であることを理解し、職員の習熟度や段階に応じて受講できるよう配慮している。研修結果は職員が共有できるよう報告の機会を設け、日々のケアにつなげていくよう話し合われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員は県グループホーム協会の学習会等への参加や同業者との相互訪問等の交流を積極的に行い、互いの良いところを参考にしながらサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等と相談のうえ、できるだけ利用までの期間にゆとりを持つようにし、見学や遊びに来てもらい、職員や他の利用者などの雰囲気に慣れてもらえるよう時間をかけて取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、おばあちゃんの家遊びに来ている家族の一員であるという感覚で過ごすようにし、学び(知恵袋、魚のさばき方等の技)、支えあい、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々かわる中で、声かけをしながら利用者の言葉や態度、表情等からそれぞれの思いや望みを察するよう心がけ家族からも情報を得ながら意向の把握に努めている。把握が困難な場合は本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め職員全員で気付きや意見を出し合い、利用者のよりよい暮らしができるよう地域資源を盛り込んだ介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間に応じた見直しとともにケガ等変化に応じた新たな計画見直しが行われている。家族の同意も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎の支援に柔軟に対応し、近隣の高齢者の相談等にも応じる取り組みをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の話を充分聞いて、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の要望があり、重度化や終末期対応への指針を作成して、終末期対応について関係者で折々に話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を全職員がしないよう話し合い、特にトイレ誘導時等への目立たない対応に気をつけている。個人情報等秘密の保持については雇用時の契約と併せてカンファレンス時に話し合い、徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの望みやペースを知ることを大切に、本人に合わせた暮らしができるよう希望に添って支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、その日のメニューを決めることから始まり、ホームの畑の野菜の収穫、食材の買い物、調理、片づけまで利用者が主体になって行われている。円卓を囲み、会話する人や聞き役など利用者全員が参加して食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望(夜間可能)に合わせ、毎日入浴ができるようにしている。入浴拒否のある利用者には声かけや対応の工夫と職員のチームプレイでスムーズに入浴できるよう支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞取り、部屋の掃除、花生け、調理、洗濯物たたみ、買い物等々、一人ひとりの生活歴や力量にあった役割や楽しみごと、気晴らしの場面づくりが行われ、張り合いや喜びのある日々を過ごす支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩のほか、買い物、ドライブ等、お天気や本人の希望、心身状態に合わせて、戸外に出かける支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放的で鍵はかけていない。職員は利用者の癖や外出の傾向を把握して対応しており、見守りや居場所の確認の連携が図られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震災害に対するマニュアルが作成され、年4回避難訓練が実施されている。玄関先には利用者と職員が共に作成した防空頭巾が設置され防災への再認識に役立っている。また、消防団員がホーム建物等の見学に来てくれるなど協力体制が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の残食量や水分補給量をだまかに把握し、管理栄養士に献立表のチェックやアドバイスも得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や中庭にベンチ、ゴーヤ(ニガウリ)の日よけ、プランターの花等があり、ホーム内には利用者が生けた季節の花や絵画等が飾られている。利用者が円卓を囲んで団欒する窓からは目隠しの格子越しに往来する近所の子ども等が見える。台所からは炊飯の匂いがし、家庭的で五感や季節感を得ながら居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には本人が選んだ暖簾が掛けられ、掃除用具や家具、写真、装飾小物等好みのものを配置し、利用者と相談しながら居心地よく過ごせるよう工夫されている。		